山岳クラブ／グーテンタータ（ドイツ語　こんにちは）

月　報　やまふみ

No.227　2014 年（平成 26 年）10月5日発行山踏み

紅葉と岩手山

会　　長　／MT
事務局長　／TK
ホームページ／http://guten-nagano.com/
編　　集　／ TS　TT　ST
印　　刷　／ 中央プリント株式会社

もくじ

山行報告（8/23～9/23）・・・・・・・・・・・・1～12
来月担当者&編集後記・・・・・・・・・・・・・・13

★8月23日（土）～24日（日）万太郎本谷（例会山行）

CL:T 島　M 井　T 井　H 岡

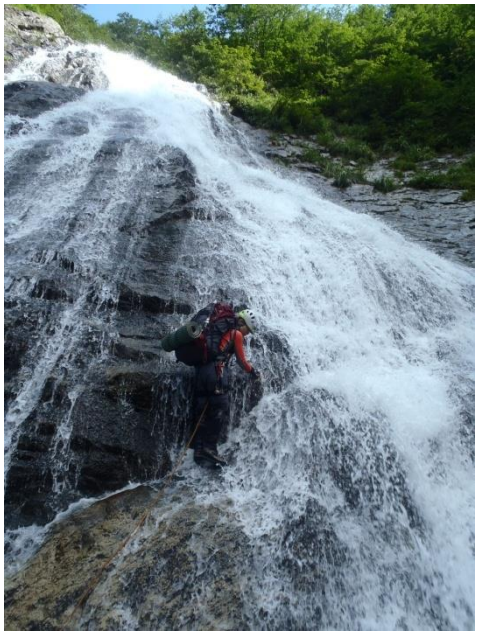
8月23日　土合駅着 7:30（電車で移動）8:34 発　→　土樽駅 8:42 着　→　万太郎入渓 10:00　→　井戸小屋沢出合 13:30　→　一の滝 15:30～16:30　→　BC17:00

8月24日　BC7:15　→　三の滝 8:30～10:20　→　稜線（肩の小屋）14:00　→避難小屋 15:10→天神平（ロープウェイ）16:2　→　土合駅 16:20

日本列島は相変わらず前線が停滞して天候に不安が残りますが、好天を期待して真田の集合場所から谷川に向かう。土合駅から一駅先の土樽駅に電車で移動して、入渓地点を目指す頃は、空には青空が広がり気温も上昇、いつもの様に私の顔は真っ赤、緩やかな林道を1時間ぐらい登り詰めると、暑さに喘ぐ私達の目の前に、巨大な堰堤が見えてきた、ここが入渓地点の様だ。グーテンの沢好きの人から、泳ぐ場面が多いが楽しい沢と聞いて来たので期待と不安に胸が膨らむ。
「ナメ」「ゴロ」「ゴルジュ」「トロ」「へつる」「泳ぐ」等の沢言葉にも馴染んできたが、線と黒丸で描かれた遡行図はさっぱり解かりません。

水温も低くなく、水につかるのも苦になりませんでした。やはり明るい沢は、テンションが上がります。しかも上信越のナメ床は白く綺麗で石タタミの様に広がっています。やがて、登攀的な小滝が現れてくるように成ってきました。川底の横たわる大きな岩の登攀、万太郎の沢は、豊富なバリエイションに溢れていて飽きさせません。
そうこうしている内に泳ぎです。M 井さんがロープを持って泳いで渡り、2番手の私はロープを頼りに「ザックの腰のバックルを外して、浮くから」のリーダーの指示に従い続きます。その後から現れる広々したナメ床の上を流れる水が陽光にきらめき、沢を一層心地よくしています。一の滝が見えてきた。とりあえず一の滝の下まで行くと水しぶきで寒い「前来た時は、滝の左から難なく登れたよ。」と M 井さんが言う。大きい30m近くある滝を登るのか？最初の 1 手 2 手の手掛り無いようでカムを使用、しかも一本のザイルでは、長さが足りず細引きを結ぶ、登攀途中ビレーの付け変えが必要という事だ。トップで M 井さんが、登って行く2番手は私だ。だんだん緊張して来るそんな私に T 島リーダーから「H 岡さん、パニクラないでよ。」

振り向き「はい」小さく答え冷静にと自分に言い聞かせ登攀開始、ここは頑張るしか無い。壁の途中でプルージックを外してアッセンダーに付け変える場面、アッセンダーのセットの仕方に自信が持てず焦る、確認を繰り返す。
まだ先がある冷静に手がかり足場を探しながら登る、もたもたしている私に滝の下から笛が鳴る。急げ、最後は草を束にして掴み、木を掴み登り詰める私を、退屈そうな顔したM井さんが待っていた。今日のハイライトはこれで終わり、一の滝の上で今日のビバーク地を確保して、焚き火とキャンプ地の整備に取り掛かりました。
　河原にある流木はしっかり濡れていてこんな木が燃えるのだろうか？兎に角、鋸で太い流木を切る。皆で共同作業です。連帯感が湧きます。焚き火を囲みながら濡れた服を乾かし、酒を飲んだり食事の準備をしたり、とても楽しく美味しく、特に私には、ホクホクしたジャガバタが絶品でした。
私は、初めての沢泊と言う事の有り、60ℓのザックか？40ℓのザックか悩んだ結果、シュラフとシュラフマットを諦めて40ℓのザックで来た、そんな私には、少々寒かったが、刈ったササを引きつめ寝心地を確保、予定通り9時半消灯、耳には渓を流れる水の音が心地良かった。



もちろん、シュラフマットとシュラフは必需品です。
2日目の朝、7時15分出発です。間もなく現れた二の滝は、右の岩壁から難なく上に登れました。ホットひと安心しながら遡行を続けて行くと三の滝が見えてきました。
奥に滝が一つと、その手前にも一つ滝があります。手前の滝の右側からを登る様です、三の滝は二段あるようで、最初の一段は少し滝から距離を取った右側から M 井さんがトップで登って行った。最初の足がかりが確保できず嫌な感じがしたが、後は、手がかりも足場もしっかりしていて安心して登れましたが最後のスラブ状の詰めで M 井さんにロープを投げてもらいました。
上段の滝は右側から流れ落ちる滝の中を直登してスラブ状の壁のクランクを伝って右上のブッシュの中まで辿る、滝の中をトラバースする時、必死に成っている私の耳の中に滝の水が直撃、自分でもび

っくり、上のブッシュに取り付くまで結構苦戦しました。
まだ終わりでは無いのです、最後樹林帯の中を移動、ここは低木の木の幹を掴み本当に難なく登れました。

三の滝からは、大きな滝は、無くなり、ひたすらゴロゴロ転がる大岩よじ登り小滝を登ったりして川筋を登り詰める。本当に疲れ足が上がらなくなる。
私は、始終川底の足の置き場を追って2番手を行く。1500m地点からは、リーダーが言う様に水は無くなり岩ゴロのみ、見渡すと回りはお花畑、その向こうには谷川の稜線がはっきり見える、言葉少なくただ登る。
最後、ひょっこり登山道に出た。ガスの為視界は無いが肩の小屋のベンチにザックを降ろした時は、ホットした。
小屋から出てきた、真新し登山服を着た若い山ガール風の女性がとても可愛らしくみえました。
天神尾根を下ってロープウェイ乗り場まで、もうひと頑張りです。
万太郎本谷は、美しいナメの歩きとゴルジュ内の泳ぎやへつり、大滝でのザイルワークでの登攀と、数多くの要素を味わえる達成感と感動の沢でした。
この沢登りに参加できた事を本当に嬉しく思いました。

H岡 記

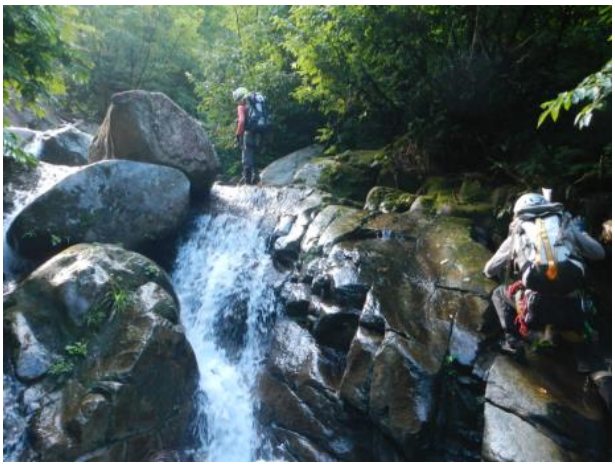
★ 8月24日（土） 姥沢川 南の入沢右俣・個人山行

CL：T島 M井 S谷

晴れ
南の入り沢駐車場 7:00―二俣9:00―稜線登山道（1660m） 15:00―ﾋﾞﾊﾞｰｸ(1260m) ― 駐車場9:50

当初は双六谷を計画していたが、今年はまったく天気に恵まれない。3日間天気が持ちそうもない為、新潟方面は天気が良さそうだという事で、急遽T島さんが企画した日帰りに変更した。
場所は巻機山隣りの割引山に登りつめる沢である。この山域はスラブが多く、直登と巻きを繰り返す滝が連続している。
駐車場に6時30分につき、林道を20分ほど上がる。地図では右の尾根の古峰山へ通じる分岐がそろそろのはずだが、出てこないため痺れを切らして林に踏み込む。沢に簡単に出られると思ったがいきなり5mほどの懸垂下降になってしまった。暫くは平凡な沢を遡行し、9時頃からこの山域特有のナメ滝が現れる
最初の頃は登れるが核心の連続した滝は、まったく登れない。滝の脇に生えた木を掴みながら、腕力まかせで登る。滝は滑らかな曲線で見応えがあり、谷川のごつごつした力強い滝に比べ、優しさを感じる。
なんとか登れそうな滝では、T 島さんが三井さんのショルダーで取りつくが、上まで届かない。しかたがないので、私がM井さんの上に乗り、T島さんを押し上げる。ダブルショルダーでなんとかクリア。
殆どが、垂直に近い滝の脇を巻き、最後は1時間以上ネマガリ竹の密集の藪漕ぎ。これはしんどい。やっとのことで尾根に出ることができた。
しかし、核心はこれからであった。途中から雲行きが怪しくなり、上に出たころはガスで周りの尾根が確認できない。資料では道不明瞭とあるが国土地理院の地図では登山道が記載されいるので、たいしたことないと考えていたがこれが大間違いであった。
出た尾根は広いため、尾根筋がわからない。大体の方角へ進むが一向に尾根筋がわからない。一瞬の晴れ間

に周りを見渡すと、どうも南の入沢へ迷い込んだようだ。進んでいる方角が違っていることに気付く。思案のあげく基本に従うということで、もとの場所まで登り返すことに。「ヒエー」またネマガリだけの藪漕ぎかい！　時間を見ると4時近い。ヘッデン下山を確信するが、今日中に帰れるだろうかと不安になる。
1時間以上かけてなんとかもとに戻り、もう一度踏み後を探すと簡単にみつかった。やはり、安易に下るべきではなかった。大いに反省する。しかし、踏み跡が見つかったので、とりあえず今日中には帰れるだろうと安心するが、それが甘かった。道はすぐになくなり、暗くなってからは尾根がどこかもわからない。あげくには大雨が降ってくる。ヘッデンでは踏み後がわからず何度も間違え、そのたびに登り返しを繰り返し、皆寡黙になる。何度も踏み後を見失い夜10時前後にいよいよ諦めビバークとする。平地がないため、斜面にツエルトを張りザックを敷き、横になる。服は濡れて寒かったがコンロを　この時のガスコンロはありがたかった。しかし数時間でガスも終わると、やはり寒い。この年でビバークを経験するとは！
　なんとか飢え・のどの渇き・寒さをしのぎ朝を迎える。昨夜の雨もあがり天気が良い。明るいので道もすぐにわかり簡単に帰れるだろうと思ったが、それも甘かった。昨日と同じようにすぐに道がわからなくなる。つまり藪漕ぎになる。本当に3時間ほどで下れる道なのだろうか？結局翌日も 5 時から10時まで歩き、昨日と合わせると10時間以上も下りでかかってしまった。今回はなかなか良い経験ができました。



by　S

９月３日(水) 苗場山（個人山行）

L:U 木、T 口

行程:子赤沢登山口 7:00→湿原入り口 9:39→頂上 10:31→登山口 13:47

U 木さんからのお誘いで急遽、決定。お天気はよさそうだ。4:30 に植木邸を出発。国道 117 を飯山から津南町（新潟県）に入り、405 号を秋山郷方面へ。しばらくは普通の道だがそのうち、これでも国道? いかにも秘境という感じの道になって行く。前にも来たことがあるのだがこれほどの悪路だったか? 子赤沢登山口への林道は2カ所入り口があるがもちろん手前からのほうがだいぶ近い。

子赤沢登山口（3合目）を出発したのが 7:00。ゆっくりペースで進む。前半は歩きやすいゆるい傾斜の道だが そのうちかなりの急傾斜も出てくる。花はオニシオガマ、シモツケソウ、アキノキリンソウ、オヤマリンドウ、サラシナショウマ、ヤマトリカブトが見られた。それに後で調べてわかったのがシラヒゲソウ。これはウメバチソウの仲間だが白い花弁にひらひらがついていて豪華な感じがする。そして葉もハート形でかわいい。この子に会えただけで来たかいがあるというものだ。

頂上湿原の端に着いたのが 9:39。いよいよこれからが一番おいしいところです。ここから山頂まで標高差は約 145m だが 1.7km 近く湿原散策を楽しめる（途中岩だらけの箇所もあるが）のだからお得なコースだ。祓川コースも登ったことがあるが そっちは湿原散策の距離は 500mほどだと思う。花はイワショウブが少し残っていた程度（赤い実も見られた）。

苗場山頂ヒュッテの近くの山頂は展望はない。湿原の中の休憩所でお昼にして帰りは鼻曲山を眺めながらゆっくりペースで秘境秋山郷を後にした。

T 口記

9月7日（日） 白毛門沢登り・例会山行

CL:S 谷　K 津　D 原

晴れ

駐車場 6:55　入渓 7:00 ハナゲの滝 7:45　タラタラのセン 10:20　大岩 11:00 ピーク 13:30　駐車場 16:00

今年の夏は天気に恵まれない。今回も数日前から微妙な天気予報で、曇りまたは雨。僅かな望みを持ち、前夜に土合へ向かう。途中から大雨になり、土合に着いてから明日はだめだろうということで、宴会を始めるが、朝起きると雨が上がっていた。これはいいかも？

とりあえず出発。すぐに青空が見え始め、「ラッキー！」。しかし、入渓すると当然水量が多い。
簡単に渡渉できるところも本日は容易ではない。
D 原さんにとっては、沢デビュー。今日は安全第一と気を引き締める。
ハナゲの滝はかなりの水量！　通常なら水流の左右どちらも登れるとあるが、本日は巻き。
タラタラのセンも今日は迫力がある。高巻きで上に出るがやはり水量が多く、急登のスラブは怖く白毛門名物？
「三平の顔に似た岩」まで巻き道を上がった。しかし、適度な緊張感で登れる滝も多く、皆で楽しく登っていく。しばらく小滝をいくつか登っていくと、視界が開け今までと様相がかわり、草原が先に見えてくる。
途中右の沢に入らないとピークの左側に出てしまう。20m ほど行き過ぎてから間違いに気づき戻る。
上部は、周りが見渡せる爽快な登りが続く。水量が多いとは言っても、1 時半にはピークに到着。
360 度の展望。皆さんお疲れ様でした。

By　S 谷

ハナゲの滝

タラタラのセン

9月　6日（土）～9日（水）五色が原・薬師岳縦走（個人山行）

O 川

9 月 6 日（土）　一日目、天気：晴れ時々曇り
　9:30　室堂 → 10:40/11:00 浄土山→　13:10　獅子岳→　15:10 五色が原山荘
　室堂に着いたら、大勢の人でびっくりイベントがあったらしく、カシオのブースをちょっと覗き、室堂を出発しました。浄土山まではたくさんの人で、五色が原山荘はさぞ混んでいるのかなーと思っていました。浄土山から竜王岳に向かうとめっきり人が少なくなりました。気がつけば竜王岳をパスし、鬼岳の東斜面でした。五色が原の花の季節の東斜面は、ちょっとした雪渓のトラバースですが、ほとんど雪はありませんでした。五色が原山荘を眺めながらザラ峠へ、ちょっと登り返し山荘に到着です。風呂に入ってのビールは最高！！
9 月7日
　二日目、天気：小雨後曇り
　6:30　五色が原山荘 → 9:10 越中沢岳 →13:10 スゴ乗越小屋

薬師岳を目指すパーティは少なく5、6パーティでした。雨具を着けて最後に出発鳶山に着く頃には霧雨も上がりましたが、視界はあまり良くありませんでした。越中沢乗越あたりから少しガスも少なくはなりましたが、越中沢岳の頂上では周りの山は見ることができませんでした。スゴ乗越あたりまで来ると視界が良くなりました。あすの天気に期待しながら、スゴ乗越小屋に到着です。

9 月 8 日

三日目　天気:晴時々曇り

6:15 スゴ乗越小屋→7:35 間山→9:30 北薬師岳→10:30 薬師岳→14:00 太郎平小屋

昨夜は満天の星でしたので、間山から振り返ると写真1。左に劔岳、中央に五色ヶ原と雄山、右に越中沢岳が圧巻です。

写真1. 劔岳、雄山、五色が原、越中沢岳

写真2. 水晶岳、高天が原、槍ヶ岳、雲の平

前方(南方)には写真2. 赤牛と水晶岳の稜線そして槍ヶ岳、鷲羽岳、雲の平、眼下には高天原とまだ踏み入れていないルートが・・・・、もう少しガンバロー！！

更に前方(南西)の写真3. 岩稜の北薬師に向かいました。写真4. は北薬師から薬師岳の眺めで大きなカールが圧巻でした。

写真3. 北薬師岳

写真4. 薬師岳

薬師岳山荘は、新築直後で泊まりたぁ～いを我慢し、太郎平に向かいました。

今日は私の誕生日、あと残すところも数時間の下山コースのみ、そこでついつい飲みすぎ「いびき」をかいてしまったらしく同室(2名)の方ごめんなさい。

9 月 9 日(水)

4 日目、天気:晴れ時々曇り、

6:30　太郎平小屋→8:00 五光岩→11:00 折立

今日も出発は最後、のんびりの下山しました。今回感じたことつまり、山小屋での早立ちのマナーです。早立ちの場合はあらかじめ前夜にある程度のパッキンを済ませ就寝、翌朝は速やかに部屋から出て、玄関口付近または天気の良い日は外で最終パッキンを行い、出発が常識と考えていましたが、朝の点灯前にヘッデンをちらつかせ、レジ袋の音を立てながら、しかも会話をしながらの準備でした。一行が出発したあと「あのオバタリアン達！」(死語と思ってましたが)と罵られていました。「クソジジィ」と言われないよう気お付けます！！

９月１０日（水）　戸隠西岳（個人山行）

Ｌ Ｕ木 、会員外1名

鏡池　7:00―P1台地　8:05ー最初の鎖場　09:10―退却点　09:23　ー鏡池　13:04

まだ寝ていた朝4時過ぎに携帯のベルが鳴る。Tロさんから昨日からの熱が下がらず行ける状態ではないので不参加とのこと。5時50分　自宅を出る。近道を行くと中社に出てしまった。あれっれ？宝光社をとうり過ぎる。U-ターンして宝光社に戻り鎌池の看板に入る。
6時50分に駐車場に着く。彼もきていた。彼は70歳で北鎌を登り100名山も完投した強者だ。
AWではたびたび出会い一緒に登っているが山は初めてだ。まずはヘルメットをつけて出発。ゲートのほうから入り林道を歩いていたら登山道をうっかり過ぎるところを彼がきづいてくれた。くだりで彼が滑り少し落ちる。こんなところで落ちるとは。ぐちる。
しばし下ると河原にでる。渡渉点は3回ある。いずれも水量が少なく何の問題もない。最近川に流された遭難死の話を思い出して昔の渡渉したことの話がはずむ。それから少しのぼりトラバースとなる。ここでぐちゃぐちゃの箇所

３番目の渡渉点

牧草地跡

もあり特に土砂崩れが顕著な場所が3mくらいの幅である。ここでトラバース中に土砂が崩れたら完全に埋まりそう。

しばらく登るとひょっこり平原にでる。ここは昔牧草地だったP1台地だ。
ここで一休み。ここから望岳台までは平原と緑豊かな森をあるく。人口の杉林がなくてなんとも気分がいい。15年前に5月の連休にここら辺でテントを張りP1を目指しでかい雪庇を乗り越えたことを思い出した。40年前は山岳部の学生10人をひきつれて登ったこともある懐かしいP1尾根。昔馴染に会えてなんかうれしくなる。しばくすると傾斜がきつくなる。

P1を望む

P1が奥の方に望まれる。
歩き始めごとに彼はさすがに速さが違う。
いつの間にか見なくなってしまった。
2時間でやっと望岳台で追いつく。最初の岩場につく。ここでは簡易ハーネスをつけ鎖にセルフとなるカラビナを巻き込む。
ストックはこれから邪魔なのでデポする。

最初の岩場は彼が4年前にきていて良く覚えていてこの箇所は難しいとのこと。
確かに足がかりが3か所作ってありこれがないと登山靴では厳しそう。

10分ほど登ると突然体調がおかしいと言われるので彼のような強者がおかしいとはこれはやばいことになると思い20分ほど休み結局これ以上は無理と結論した。今登ったばかりの鎖場を用心のために8mmのロープで確保して降りてもらった。それからP1の頂上をながめて昔話をする。
また牧草地跡でもゆっくり休み山の話で沸き立つ。そこからゆっくり歩くが最後の登り返しでは足がはやくなり元気をとりもどしてくれてほっといた。登りでは知らずに過ぎた登山届の場所で見学する。駐車場にやっとついて解散となった。自分は足が弱いので同行者が弱るのはめったにないことであった。年が年なので急に脳梗塞とか狭心とかなる可能性はあるのでかなり心配になったが無事帰れてほっとした。近いうちにリベンジを密かに誓う。

U木記

9月 13 日(土)～14 日(日)　川場たに（沢登り、例会山行）

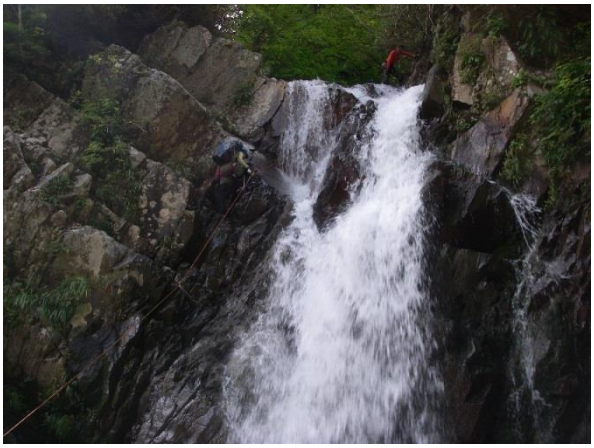
メンバー　CL：藪こぎマイスターT（T 島）、エージェントK（K 津）、 D 原(517) 、
H 岡 (513) 、Y 本(510)、S藤(462)

行　程：入渓 8:30→獅子の牢 10:00　→8m滝 13:40・14:20　一幕営地 16:00
幕営地8:00→　登山道13:20　→沖武尊山14:10　→　川場谷野営場　18:00

9 月の初め一本のメールが入った 『今晩はSくん、今回の君の任務だが、沢行経験の浅い三人を連れ、薄根川川場谷を攻略してほしい、任務に当たり、君又は君の仲間が藪に捕らえられ、あるいはビバークを余儀なくされても当局は一切関知しないからそのつもりで、なおこのデーターは自動的に・・以降省略』藪こぎ三人衆の一人、藪こぎマイスターTことＴ島氏からだ（以降マイスターT）。
逆らうTに祟りあり、逆らうことはできない、早速 2 年ぶりの沢道具を取り出す、すっかりフェルトのすり減ったわらじにはうっすらとカビが吹いていた。
山行当日マイスターTと待ち合わせ、長野組との集合場所に向かう。
集合場所で荷物をY氏の車に積み替えていると突然マイスターが大声をあげた。
『あ！ヘルメット忘れた・・』、「どうするんだよ」、「いいよタオルで登るから」心配ではあるが、このネタで 3 ヶ月はいけると思った自分がいた。
沼田でエージェントKと落ち合う。彼の手には秘密兵器ウールのフェルトを装着した新品の沢靴があった、薄目にしないとまぶしくてよく見えないぜ。あれ車の中にヘルメットが二つ、奥さんのらしい、事情を話し今回の山行の間借りることとなった、これでマイスターTも安心のはずだったが・・。
車 2 台で入渓点に着き、DとHそれと自分が荷物番として残り、残りの 3 人が下山先に車をデポにゆく。残された 3 人で沢支度をしていると突然Hが大声をあげた。
『あ！ヘルメット忘れた・・』、これで奥さんのヘルメットはHがかぶり、マイスターTはタオルで登ることとなった。困ったことではあるが、このネタで半年はいけると思った自分がいた。
沢支度が整ったところで入渓する。あまり広い沢では無いがナメがあったりゴルジェがあったりで楽しい、釜を持つトイ状の滝で腰までつかり取り付くが、落ち口に這い上がれない、仕方なく引き返しマイスターTの張ったお助けでのっこすこととなった。

この直後、水に浸かったためか、ブランクのためか両足のふくらはぎ、大腿四頭筋がつりましたよ。傍から見ればロボット歩きで最後尾を付いてい行く羽目になりました。

大きな釜を持った滝をエージェントKが微妙なバランスでへつる、その後をHが続くが途中で行き詰まる、どうやら足場がないらしい、必死に両手で岩にしがみついているがその体制では行く末は見えている。案の定、数秒後にはプクプクと水面に沈んで行くHを助けるマイスターTがいた。



核心の 8mの滝はマイスターTがリードする。水流の左を登り、落ち口直下で水流を受けながら落ち口へ抜ける。落ちると痛いだけではすまないのでザイルを張った。

その後、幕営地を探しながら行くとエージェントKが良い場所を探し出した。

早速整地をし、タープを張り流木を集める、流木に火が付けば各自持ち寄ったアルコールで宴会が始まる。マイスターTの食事もうまく、話も弾み就寝予定をはるかにすぎて寝袋に潜り込んだ。

翌朝熾火を起こし具だくさんの雑煮を食うこれもうまい。

これ以降沢は難しい所もなく、一カ所分岐を間違え時間のロスをしたが目的の沢に入り、懸案だった藪こぎもマイスターTの根曲がり竹を物ともしない突進力と、的確な判断力で抜けることができた。さすがである。

その後突っ張ったままの足をだましだまし下山したが、一人だけヘッデン下山となりメンバーに迷惑をかけてしまった。

結果として任務は遂行できたのだろうか？まだまだ修行がたりん。

総括

天気も良かったし、流木も思っていた以上にあり藪こぎもありで充実した沢行だった。

藪こぎ三人衆の一人、マイスターTの力も見たし、藪こぎ三人衆のあと二人の実力も見てみたいものである。

とむくるーず記

追記

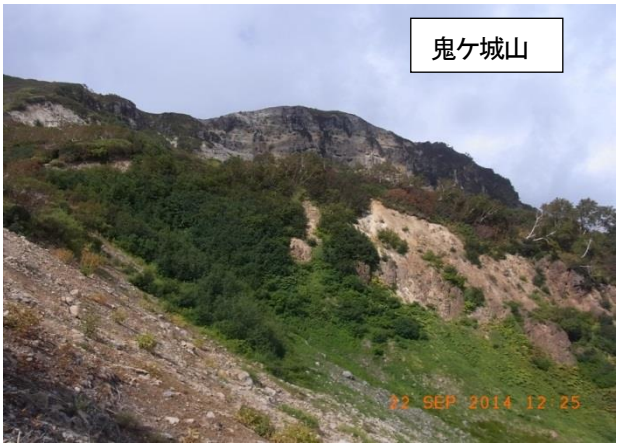
夕げの時突然Dが大声をあげた『あ！箸忘れた‥』

★９月２２日（月）　火打山（個人山行）

L:U 木　良昇

登山口 5:24―黒沢 6:32－富士見平 8:16-高谷池　9:10―山頂 11:18―　高谷池 13:02
－富士見平 14:01―　黒沢 15:40―　登山口 16:40
連休なので駐車場が心配だっあったがなんとか駐車できあた。
れんまだ暗い登山口を出発する。今日は 8 時間から 9 時間コースへ挑戦。伊部さんのコースタイムは 9 時間 20 分。先週の西岳は 8 時間コースなので少し不安がある。先発は二人連れの夫婦。100 名山コレクターかな。木道を黙々とあるく。すぐに後ろから登山者がくる。木道を降りると植物に害があるのですれ違いにも木道を降りないようにとの注意買いがありすれ違いは大変だ。黒沢は相変わらずすごーい水量で橋は揺れるので怖い。ここから 12 曲りとなる。急登を登ると尾根に出て山が見える。5 月末にここまできて急に風がきて寒くて退却した。上からぞろぞろ降りてくる。この時間だと高谷で泊ったのか。シニアの叔母さんたちが多い。
富士見平につく。ここで妙高との分岐だ。大きな岩もでてきてすごく歩き悪い。
高谷池につく。ベンチが満員なのでパスした。高谷池はまだ紅葉には早かった。
しばらく登ると鬼が城の稜線が見えた。40 年前に GDM の 5 月の合宿でこの尾根をたどったので懐かしい。ここら辺で大きな雪穴を堀ってみんなで寝た。秋の今頃ワンゲルの若者達と火打から焼山から乙女峠に縦走したことも思い出さす。そのうちの一人がフリークライミングに凝って小川山でかなりのルートを開発した。40 年間かかさず年賀状をくれる律儀な人だ。今日は登り 9 時間に挑戦。　百名山なので大勢の人に会う快晴　無風　　ひたすら登り　ひたすら下る。膝をかばいながらゆっくり下る。
なんあとか登山口。　次回は上高地から穂高に行ってみたくなった。
　　帰宅したら犬が逃亡していた。近所の人が捕獲して警察に預かっていたので夜遅く県警にもらい下げに行った。ロープのフックが破損していた。

U 木記



鬼ケ城山

頂上にて

★９月２３日（火）　林道端フリークライミング（個人山行）

L:S 志川　K 林　H　S 木　H 部　S 崎　U 木

松代神社　8:00―途中の広場　8:20　発　9:30　林道端 9:30－4:00 発-　松代神社 4:15

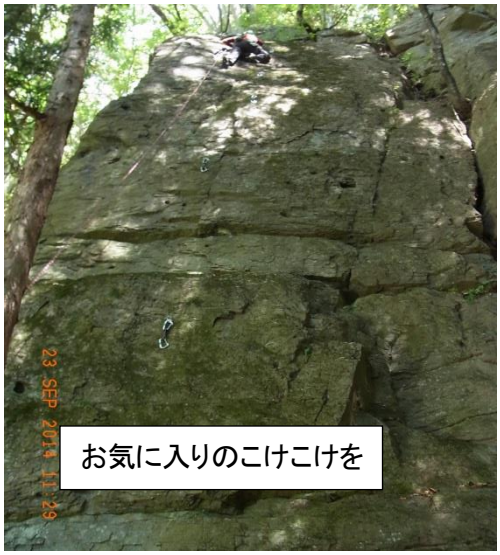
途中でニューエリアを S 川さんが偵察したが結局分からず。

『やまふみ』10月号

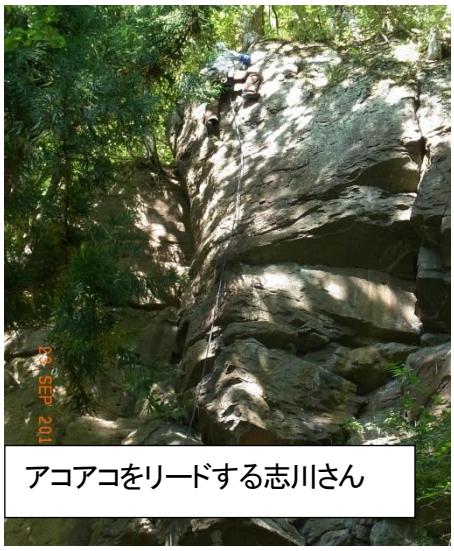
グーテンでは久々の林道端。久々の天気の登り。7 名のフリークライマーはがんばった。（私を除いて）自らの戒め　4 日連荘はけがのもとを破ったので心配しながら。

後発の松本から若者 2 名が難しいサウスエリアを登っていた。

まずは５．８　ホコリ　続いて　お気に入りの　コケコケ　6 月来たときは本当にコケコケでリードしたが今日は埃が舞ったいた。



お気に入りのこけこけを


アコアコをリードする志川さん

隣の１０ｂ　偽りの愛は　おきにいりでお買い得です。

初めてのボロボ１０ｃはカチが続く楽しいルートだが結構長いのでとちゅうで腰がいたくなり急きょやめた。

森山さんがボルトを打っていた初登の兄貴とアコや楽しみなども皆さんが登るのを見学した。

お昼に小林さんのモンベル製品で木の枝をもやして発電する優れものを感心してずーと睨んでいてさらにおいしそうな　らーめんをうらやましそうにみていた。人によって好みが違う。重曹ををいれるとなんと生らーめにへんしんするとか。

帰宅後をばば（家内）に聞いたらテレビで放映されたそうだ。

私は 50 年以上チャルメラー筋。　暖かい日差しの中でクライミングを楽しめた 1 日であった。リードしてくれたＳ川さん　Ｋ林さんには感謝感謝。

Ｕ木記

厳しい指導するＨさんとＨ部さん

＊編集後記＊

今年の沢シーズン。昨年に比べれば、比較にならないくらい行ったかもしれない。それも数だけでなく、内容の充実感？も今までの中でピーク！ヘッ電での沢下りに始まり、ビバーク、道迷いでひたすら薮こぎトータル○時間？…と、根性がついた中身の濃い山行が多かった。そして…これだけの山行を行いながら、けが人を出していない！後残すところ数回。気を引き締めて沢に臨むのみ。沢の神様感謝です。　／てら

勧められて見た映画「ライフ・オブ・パイ～トラと漂流した227日」、少年の勇気と知恵に感動。そしてその映像のすばらしさで私の中のベスト・ファイブ入り。久しぶりに心震える映画に出会えて幸せでした。　／エリパパ

膝が痛い…。昨夏からではあったが、とうとうかばっていたもう片方の膝も痛みだした。医者に行けば、「そろそろ大事に使わないとね～」だと？確かに、今まで下りだけは人に負けない自信があったゆえ、ついつい飛ばしては悪化させた。ペースも山行回数もほどほどを心がける…まだまだ山とは付き合っていきたいからね。でも、ほどほどって難しい！筋トレ頑張ろっ。　／とっこ